

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270901588		
法人名	有限会社ぐるうぷほうむ礎		
事業所名	ぐるうぷほうむ礎		
所在地	船橋市行田3-2-22		
自己評価作成日	平成30年11月22日	評価結果市町村受理日	平成31年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成30年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護保険法の目的を核に、看取りは居家で家族とともにを理念に謳っています。私たちは医療職、介護職、その他の職種とも連携を図り、終の棲家としての役割を担っていると自負しております。それを可能にするに私たちは金太郎飴の介護と称し、誰がやっても平等に同じ水準の介護が提供できるように、皆がすべての業務に関わる機会が作れるような勤務態勢をとっております。利用者の命を守る使命感に関しては特にどこよりも優れていると思っており、毎日の健康管理を徹底しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①介護保険法の基本理念を基に、「看取りは居家で」「共に生きる」「命を守る」介護を理念としている。②家族、職員、看護師、医師が総力を挙げて最後の看取りまで支援することを使命とし、理念の実践につなげている。③職員は一人ひとりが管理者の意識を持ち、「利用者の命を守る」ために常に介護能力の向上を目指している。ホームでは上下の関係もなく、職員同士の話し合いを重視し、金太郎飴の介護と称する誰でも同じ支援を行うことができるようチームケアを徹底している。④地域で生活に困った方、他の施設で対応できない胃ろうの方等を受け入れ、利用者は住み慣れた居室で馴染の職員、利用者、家族とともに、ゆったりとした時間を過ごしている。⑤終末期には利用者・家族の意向を確認しながら、看取り介護に関わり、終の棲家として人生の最後まで寄り添うケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	看取りは居宅で、家族と共に企業理念として掲げております。ご家族、医療職の協力を得ながら管理者、職員はご利用者の終の棲家であることを意識して理念の共有を図っております。	介護保険法を基に、利用者と「共に生きる」「命を守る」介護を理念としている。家族、介護職、看護師、医師が総力を挙げて最後の看取りまで沿うことを使命とし、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議を地域との情報交換の場として活用しております。グループホーム連絡協議会の勉強会に積極的に参加をしております。当事業所職員が自治会会員として地域との連携にも努めております。	運営推進会議に自治会代表、民生委員が参加し独居高齢者問題等について地域の情報を共有している。職員が自治会の花を植える活動などに参加し、利用者が天気の良い日は団地の広場に散歩に出かけ、グループホームや認知症を自然に理解してもらうよう取り組んでいる。	介護度が上がり、利用者の状態等の問題もあるが、保育園や学校との親善や地域祭りへの参加など、更にホームのことを近隣住民に理解して頂く取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所付近の団地等にお住まいの方や、近隣の住民の方が不測の事態に見舞われた際、地域の認知症対応施設として、一時的な預かり等をする役割を果たしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を実施しており、その際での有用な意見や提案は、可能な限り現場で反映させることができるように柔軟な対応を心がけております。	運営推進会議では利用者の状況や困難事例に対する介護の取り組みなどを報告している。身体拘束やスピーチロックなどについて参加者と話し合い、身体拘束ゼロに向けたホームの具体的な取り組みを伝えている。また、地域高齢者の抱える問題について話し合い情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	まず船橋市の福祉介護サービスのあり方を当事業所が常に最新のものを把握しているように情報を共有し、きちんとその在り方に準じた上で当事業所独自の理念を理解していただく努力をしております。	市からの依頼による在宅で家庭的に課題のある高齢者や生活に困窮した方を多くお引き受けし、事業所理念の人の命を守っていく介護を職員の総力を挙げて行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	既存職員、新人職員を問わず、人間の尊厳を冒さぬ努力は日々行っております。外部研修には特に基礎～専門課程まで参加し特に意識をしている課題です。やむを得ずの拘束もございしますが、身体拘束0を目標として定期的に見直しを実施しております。	どうすれば廃止できるのか職員全員で議論し身体拘束ゼロに一丸となって取り組んでいる。拘束するケースは極めて限定的であり、常に代替的な方法を試行錯誤している。個人の尊厳を大切にし、利用者を否定する行為のない介護に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修および外部研修にも積極参加し知識の向上に努めております。職員もご利用者も一人で悩んだり、困ったりが放置されぬよう、些細なことにも注意と気配りをするように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所では権利擁護の必要な方に対しては、支援できるような体制を整えております。管理者、職員等は内部研修等を通じて理解し必要に応じて活用していただけるよう努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者が安心して入居していただけるように、契約前に家族や縁者も同席できるようにしており、わかりやすい説明を心がけ、きちんと納得と同意を得た上での契約を重要視しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に相談窓口として、行政の窓口を設置しており、施設内に苦情相談入れを設置しております。当事業所の理念を十分にご理解いただいた上で、配慮に欠ける部分や要望にはすぐに対応するようにしております。	利用者や家族からの意見や要望を大切にし日常的に職員間で共有している。また、運営推進会議などでも要望の把握に努めミーティングを通して運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	幅広く意見や提案をしてもらえるよう、隔週でのミーティングの機会を設けています。代表も管理者も参加してよりよい介護をしていくための建設的な意見交換しております。	利用者の関りについては、事業者も含め職員同士日々話しあっている。意見が分かれることもあるが、利用者に対してBestな介護ができるよう議論し運営に反映させている。フラットな組織であり、職員一人ひとりが管理者の意識を持った運営を心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表、ホーム長が常に管理者や職員の目の届くところに居てください現状把握に努めていただいております。定年制を敷いていないのが当事業所の特色です。皆が長く務めていられるような環境整備を常に心がけて行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々のキャリアに準じた外部研修の機会を提供できるスケジュールが組まれております。また職員間でも自発的に勉強会に参加したりして、事業所全体にフィードバックして介護の質の底上げに努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主には外部研修を通じて、グループホーム連絡協議会の勉強会を通じての交流や意見交換をしたりしての中で、よりよいものを当事業所に取り組みむようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと話を聞くこと、ありのままを受け止めることを実践しており、まずは安心して対等に向き合える人間関係を築くことを大事に、信頼関係を構築する努力をしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族も含めた協力体制を基本的な姿勢としております。最後まで命を守ることを基本姿勢として、どのような利用の仕方(看取り、一時帰宅、外出等)でも柔軟に対応できるところが当事業所強みでもあり、安心を提供出来るかと考えております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安を持たず暮らすことができるように、最大限の配慮でサービスの提案を致しております。当事業所だけで過不足が感じられるようでしたら、他サービスの提案や、紹介等も行い支援に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生きることを理念に掲げておりまして、職員と利用者間の信頼関係の構築をもとに、残存能力を引き出す支援に努め、対等な関係を作る努力をしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力は大変大きな力となります。家族を含めた協力関係の下に利用者の支援に当たることを前提とした契約となっております。生活環境を大事に整える為の支援に努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限りで馴染みのあるかたや、家族とのつながりを維持していただけるように関係の構築に努めております。私どもの事業所も最後まで共に過ごす馴染みの関係を築くように努めております。	ほぼ毎日来訪する家族や友人やご兄弟が来られて会話を楽しむ利用者もおられるが、独居の方や生活困難な方が多く、認知症が進み馴染の方々とは遠ざかっているのが現状である。ホームでの生活に職員が馴染としてつながり、最後まで支えていく支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を共にしたり、通院時に同じ車に乗ったり、食事前に行っている体操に可能な限りみんなで参加してもらったりなどして、名前が覚えられない方がいても顔なじみになっていただけるような工夫をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所では、契約終了後も家族からの相談を受けたり、交流関係を維持する取り組みをしております。当事業所は地域のコミュニティーの一部として活用していただければと考えております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	最大限にご本人の意向を尊重して実践しております。困難な場合は、その方にとって安心して暮らせる環境の配慮に努めております。利用者を含めたチームとしてサービスに当たり柔軟に対応しております。	利用者一人ひとりを尊重し自己選択・自己決定を大切にしている。日々の関りの中で行動・発言・仕草・状態・表情・意向等を記録に残し、職員間で情報共有して、可能な限り利用者の思いを形にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	環境の配慮がまず何よりであることを意識して当事業所はケアに当たっております。必要であるならばこれまでのサービスを継続していただける支援体制もっております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々に担当制を敷いて現状の把握に努めておりますが、当事業所はチームケアとして、個々の行動記録から、医療情報も含め生活のリズムを皆で見守りその方らしい生活を送られる支援を心がけております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には説明と同意を求めたうえでケアプランを作成および実行しております。本人の見えない課題、困難な事例についてはご家族の意見などをお聞きしてプランに反映することもあり、チームとしてケアに従事するように努めております。	家族と話し合い利用者の情報を共有し、家族の意見を取り入れ介護計画に活かすようにしている。職員は日々、利用者のケア内容や対応を話し合い、課題となった案件は介護計画に反映させ全職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常勤職員がローテーションシフトにて日々のケアに対応しており、記録から日常の様子等を一人ではなく皆の目で見る事が出来ており、全利用者の情報を皆で分かち合い情報の共有に努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は小規模多機能施設へ行ったり等の対応などでもございました。現在は運営推進会議などを利用して現場以外の貴重な意見を聞き、参考にしながらケアに取り込むように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員との連携、自治会、老人会への参加や、広く情報を共有し、施設内に利用者が閉じこもらないように努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診前には本人のニーズや家族の意見もお聞きして現況を把握した上で、受診するようにいたしております。かかりつけ医とは良好な関係を継続していけるように必要な情報のやり取りはきちんと行い、医療職とも綿密に連携しております。	利用者の殆どは提携医療機関をかかりつけ医としている。毎週往診が行われ、利用者個々の詳細な情報をかかりつけ医と共有し、何でも相談できる信頼関係がある。他医療機関受診時は必ず職員が付き添い、日々の様子を伝え、受診結果は引継ぎノートに記録しミーティングで周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報の交換を訪問看護師と行っております。朝のミーティングにも参加して下さっています。必要に応じてタイムリーな相談援助を受けられる支援体制をとっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当事業所では、介護職、ケアマネが密に情報を共有しあい、介護サマリーを作成しております。看護職とも連携をとっており、適切に医療機関にかかれており入退院時もスムーズに行くよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では、看取りまでを行うことを理念に掲げて実践しております。主治医とも支援連携をとらせてもらっております。医療行為、延命に関する意思確認書を取り交わしており、方針の共有をして支援に努めております。	契約時に、重度化した場合及び看取りの実施に関する同意書を交わしている。利用者が重度化した場合は、主治医・看護師・職員でミーティングを重ね、利用者本人・家族の希望に沿った対応を行っている。住み慣れた居室で終末期までの継続的な支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より緊急体制のマニュアルは取り決められており有事に備えております。応急手当や初期対応は内部研修を定期的に行い、必要に応じて消防にて救命講習を受けるようにして実践力を身につけるようにしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に敏速に対応できるよう朝礼時に皆で避難誘導、初期消火、消防への連絡等を声を出して確認居ております。避難訓練を実施しており、職員と利用者間での共有も図っております。	避難訓練は年2回、日中・夜間を想定し利用者には外気浴や散歩と伝えながら混乱を防ぎ、安全に移動できる訓練を実施している。万が一の災害時には身動きが出来ない利用者はマットレスを活用した移動など、入居者の状態に合わせた誘導技術を共有し、災害に備えている。	厨房でのガス器具やコンセントの確認など、日々の火元チェックの実施とともに、近隣の商店街やコンビニなど近隣住民の協力が得られるような体制作りが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当事業所の倫理規定記載内容です。内部研修でも重要課題として取り上げており皆できちんと配慮と対応に努めております。	点滴や、胃ろうの処置、食事介助などは他の利用者の目に触れないようにそれぞれの居室で行い、利用者の尊厳やプライバシーを損ねない配慮をしている。また、認知症ケア専門士が利用者の立場に立った認知症の方への接し方をフィードバックし、職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のニーズを掴むためのケアが出来るように個々の思いや気持ちを引き出す援助努力をしております。職員間で情報の共有に努め、職員本位なケアにならないように注意して支援に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時間によって本人の気分や状態が変わります。常に柔軟に対応するように心がけており無理強いすることなく生活できる環境を提供できるように努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の望みであったりこだわりを尊重しております。季節に合った身繕いが出来ない方には、家族の協力などを得て清潔で季節に合った身だしなみが出来るよう支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嚥下能力等も勘案した食事の提供に努めております。食事の準備に関わることの出来る人は少ないですが食後の下膳やテーブル拭き等、可能な範囲で力を発揮してもらっております。	訪問歯科による嚥下指導や義歯の調整が行われ、食べることを大切に支援が行われている。また、利用者の状態に合わせて常食、キザミ、ペーストと工夫を重ね、食事を残すことが無いように工夫している。評価者も参加した食事では、職員も一緒に食べながら見守り、何気ない会話を楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食がまずきちんとできる状態であるか日々の生活の中できちんと観察をしたうえで、食事の量や形態を個別化していくようにしております。週一回の体重測定を全員行っており体調面も合わせて、総合的な支援に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方から全介助の方まで個々に合わせた口腔内清潔を実施しております。口腔内の状態に応じて必要な時には訪問歯科に依頼をして適切なケアの方法なども助言を頂きつつ、清潔保持に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の体調のリズム把握が重要。職員と利用者が共有できるカレンダーを作成、利用パターンやリズムを認識出来るように努めております。個々の習慣やリズムが把握できるまでは食事の前後等に促しや介助を行っておりトイレに座る機会を作っております。	利用者個々の排便カレンダーを作成して自己管理を促し、職員は水分摂取量・尿量・色調・便の性状を確認し健康管理に努めている。また、食後は必ずポータブルトイレ座るよう誘導し自然な排便ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医とは、薬の相談を行っておりますが、下剤等の服用は最終判断として捉えております。まず職員間で可能な限り日常生活や食生活での改善を実施しております。ヨーグルトの提供やさつま芋などの食物繊維の提供や歩行機会の回数増等、生活の中で自然排便できるように努めております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	今まで暮らしてきた生活のリズムに沿うことができるよう可能な限りの対応に努めております。失禁等により昼夜問わずに洗身介助を行うこともあります。	最低週2回、利用者の希望に沿った入浴が行われている。シャワーチェアー・リフト浴・車椅子の方は二入対応を行うなど利用者一人ひとりに合わせた安全で快適な入浴支援が行われている。入浴時はあざや傷を確認し、入浴後は保湿剤を塗布して健康管理に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが思い思いに居室にて過ごされております。生活リズムがうまく作れない方には、意図的な休息の促し等行うこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人担当する利用者がいます。基本的にその方々の情報は担当者が細部まで把握し、さらに皆でその情報を共有しております。わからないことは主治医、薬剤師、訪問看護師に相談や意見を求めて、支援と確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望を優先した援助を取り入れております。出来ることの喜びをともに見つけ出し、本人の生きる意欲につながる支援に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に外気浴を実施しております。散歩なども行っており、閉鎖的な暮らしにならないよう地域とのつながりを持っていく支援に努めております。遠出の際には家族との相談を踏まえて可能な限りの支援を行っております。	利用者の体調に配慮しながら団地内の広場への散歩や近所のコンビニに買い物に出かけている。介護度の高い方も車いすに乗り、事業所前の中庭に出て、生い茂った木々や藤棚、紫陽花、グミなど季節の花々を楽しんでいる。遠出外出は家族の協力により外食を楽しんだり、自宅に戻られたりする支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の管理は家族の方をお願いしております。買い物等も家族の方としていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使い方が理解でき意思疎通のできる方は、外の公衆電話を使用していただいております。他の方に関しては、ご家族お知り合いの都合のよいときに当事業所にかけていただき、本人様に取り次ぐように致しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を共用空間に活けており、季節を感じていただけるようにしております。利用者にとって住みやすい環境の整備に努めております。	普段は利用者は居間でゆっくりと過ごしている。リビングに季節の花を飾り、水槽に金魚が飼われ狭いながらも利用者に落ち着ける場所となっている。また、口腔リハビリを行って機能維持の場となっている。厨房からの食事を作る音が匂いが漂い、生活感を感じる環境になっている。	利用者アンケートの家族からの要望にも有るが、共有スペースは決して広くはないのでホーム全体の整理・整頓が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にテレビや椅子を設置しております。尚居たい場所に居たい時間におられるように配慮致しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安全に落ち着いた暮らしが出来るように、可能な限りの希望を実現するよう努めております。	介護度の高い利用者が多く入居されている現状から、職員は寝たきりの方のテレビの角度や高さを調節し、目の悪い利用者には重たい家具を置き伝い歩きができるような工夫が行われている。一人ひとりの利用者の安全で落ち着いた暮らしを介護の中で常に考え、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の持てる機能を奪わないように、残存機能を生かした生活環境の整備を行っております。尊厳を大事に日常生活を営んでいただけるよう配慮致しております。		